

令和2年度学校自己評価表【中間評価】

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇気と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心
-------------------	--

今年度の重点目標	1 学力の向上と進路実現 (1)授業規律と学習習慣の確立 (2)力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫 (3)キャリア教育の充実 2 自主自律と協調性の育成 (1)基本的な生活習慣の確立 (2)生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成 (3)質の高い部活動の実践 3 学校の魅力化 (1)コースの発展・充実 (2)「地域探究の時間」の発展・充実 4 学校における安全確保の徹底 5 業務改善の取組の推進
----------	---

評価基準 A:十分達成 (90%) B:概ね達成 (70%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (35%程度) E:目標・方策の見直し (20%以下)

評価項目	具体項目	年度当初		評価結果【中間評価】			
		目指す姿	現状	経過・達成状況	評価		
学力の向上と進路実現	授業規律と学習習慣の確立	○どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取り組んでいる。 <指標> 教員アンケート「生徒が授業に集中して取り組んでいる」の評価AとBと合わせて70%以上。生徒の家庭学習時間1日平均1時間30分以上。生徒アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AとBと合わせて70%以上。	○おおむね授業規律はよくなってきているが、授業に集中できていない生徒も見受けられる。また、始業時間に遅れる生徒や授業の用意が不十分な生徒もわずかにいる。 ○定期考査の前だけ家庭学習をするという生徒が一部に見受けられる。課題提出の取り組みは、進んできているが、授業の予習や復習を含めた家庭学習の取り組みが不十分な生徒が若干みられる。	○評価方法を周知徹底する。平常点も重視されることから、教師が授業開始時間を必ず守り、チャイムとともに授業が始まるよう生徒に指導するとともに、教材などの持ち物についても確認する。 ○予習・復習を含め家庭学習の指示を具体的に示し、提出物についてもこまめに確認する。また、学習についてこれない生徒・気になる生徒については課外や面談等を行い、関係職員と連携し対応する。 ○生徒が授業に集中できる環境づくりを行う。そのために、学年会・教科会・支援会議等で情報交換を行い生徒理解に努める。	○小テストや単語テストなどの仕掛けはできているが、取組姿勢や課題提出には問題がある生徒も見受けられた。 ○学習についてこれない生徒については、考査前の学習会を行う取り組みを行った。 ○速やかな教室移動による授業開始時刻の遵守の徹底や授業に集中できる教室環境整備に取り組んだが、授業に遅れてくる生徒も見られた。	C	○2学期以降も考査前学習会を実施する。 ○「Classi」、「Google suite」、「スタディサプリ」等を活用し、学び直しによる基礎学力の向上を図る。 ○授業開始・終了のメリハリをつけ、時間遵守の取組を継続する。 ○教職員が率先して時間厳守の取組を引き続き取り組み、教室移動ができていない生徒への対応など教職員間で連携して進めていく。
	キャリア教育の充実	○キャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 <指標> 生徒アンケート「明確な進路目標を持っている」評価AとBと合わせて1年で70%、2年で80%、3年で90%以上。	○アンケート結果では「明確な進路目標を持っている」生徒の割合が75%前後で推移している。しかし、目標達成への道筋がイメージできず、具体的な行動に移せない生徒や、目標を下げてしまう生徒の姿も見られる。 ○生徒が学びに向きあうまでに時間がかかっている。	○1年次から生徒の視野を広げ、具体的な将来設計を描くことができるような働きかけを行う。 ○それぞれの時期における指導テーマを明確に生徒に伝え、進路面談を繰り返し、他分掌との連携をとりながら進路指導を行う。 ○生徒が身につけた力について、SMT(ルーブリック評価)で確認しながら指導する。	○各学年とも、進路検討会などを通じて、進路目標に応じた科目選択、高い志望の維持など、それぞれの時期に応じた進路指導を行った。 ○担任を中心に面談指導を行った。職員の意識を揃え模試結果などを生徒にフィードバックすることに努めた。 ○1、3年については進路探究事前ルーブリック評価を実施した。	B	○今年度については、進路学習の中でも大学等に出向いたり外部からの講師を呼ぶことが難しかったため、進路に関する情報を十分に与えるのが難しい。10月に1、2年生を対象に進路相談会を企画しているため、そのような機会を捉えて進路意識を高めた。
自主自律と協調性の育成	基本的な生活習慣の確立	○より高い生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いた生活で生活できている。 <指標> 遅刻者数の減少。頭髪・服装指導対象者数の減少、問題行動発生件数の減少。	・昨年は、遅刻が増加し遅刻指導や服装指導を行う場面が多かった。今年度は基本的な生活習慣の確立・遅刻の減少・授業規律・服装容儀・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取組もうとしている。	・5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。 ○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。 ○基礎・基本の徹底等、SHRなどでのタイムリーな指導をする。	○遅刻者数は1学期は昨年度と変わりはないが、2学期に入り減少傾向である。遅刻届の提出も届り始まった。 ○生徒会の協力もあり、教室整備がやや改善傾向にあるが、クラスや場所によって差が大きく行き届いていない。 ○スマートフォンの使用についての校内規定を変更したが、校内で使用し指導される件数は増えた。	C	○遅刻生徒を小さい集団からポイントを絞って指導、説諭することで、時間遵守や計画性のある行動を学ばせる。5S等やルール、マナーを守ることの必要性を理解し、物事に対する考え方の改善を図る。その結果として個々の物事に対する考え方の改善が基本的習慣の確立につながる。
	生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成	○どの生徒も生徒会活動や学校行事に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。 ○どの生徒も学校行事を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 <指標> 生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとBと合わせて85%。また、生徒アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価AとBと合わせて85%以上。	○縦の横のつながりが希薄で、執行部・育英祭実行委員会・応援団・各委員会活動も含め、生徒会活動に主体的に参加する生徒もいるが、全体としての意識は薄い。○遅刻者多数に歯止めがかからない。 ○育英祭・球技大会では生徒会執行部・実行委員が全体像をイメージできておらず、連携がまだまだであり、協調性もとほしい。	○執行部と委員会、部活動が連携し目標を見える化することで全校生徒への取組を促す。挨拶運動放課後の教室点検、部室一斉清掃等を行う。部活単位で遅刻者数を集計。 ○新聞部発行の新聞に生徒会コーナーを作ってもらい連絡や意識改革を促す。 ○実行委員会や執行部会の回数を増やすことで、全体を把握させ、全校生徒への指示を目的も含め明確にし、全校生徒が活動できるようする。	○部活単位で遅刻者数を集計しホワイトボードで見える化したのが3年が早く引退し部活未加入者の遅刻数が多い。 ○新たな連絡方法として新聞に生徒会コーナーを作ってもらい記事を書いた。 ○実行委員会や執行部会の回数を増やし新聞や放送の指示を増やしたが聞いていない、見ていない生徒がいる。	C	○遅刻者集計表を3年生部活引退後は、クラスごとの集計にする等の変更し、遅刻者削減を図る。 ○新聞をどの程度の生徒が読んでいるのかを把握するとともに、新聞を活用した連絡や意識改革を継続する。
	質の高い部活動の実践	○自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。 <指標> 県大会優勝6部、全国大会出場8部、全国大会出場者数のべ150名	○多くの生徒が部活動に参加し、活発に活動している。 ・部活動加入率全体92%(昨年度4月末)88%(今年度4月末) 県大会優勝6部(個人含む)、全国大会への出場は8部、延べ142名	○現在88%(4月末)2年生を中心に未加入者への声かけをする。(9月末に調査し生徒総会で促す) ○生徒会執行部・応援団を中心に各部の活動を応援するとともに、結果についても広く全校に広報していく。ホームページの掲載を積極的に依頼する。 ○年間及び月間計画に基づき練習方法の改善に努め、より効果的な部活動の運営を行う。	○1年生の未加入が多い。部活動加入の声掛けを継続中。 ○9月末に部活動加入状況調査を実施した。 ○放送部に協力してもらいPR動画(県主催)の作成をしたが、参加部活動が少なかった。 ○年間及び月間計画に基づき練習方法の改善に努め、より効果的な部活動の運営を行った。 ○部活動振興のため、第2体育館にも新たに製氷機を設置した。	C	○部活動加入状況調査を分析し、加入促進を図る。 ○部活動顧問は、生徒の学習・部活の両立を考慮した月間計画の立案に努め、効果の高い練習方法に改善する。
学校の魅力化	コースの発展・充実	○体育コースは、トップアスリートを目指して日々鍛錬する中で、意識レベルを高め、部活動はもとより、学校生活において範となる生徒を育成している。 ○特進クラスは、上級学校への進学等、進路実現を果たしている。 <指標> 学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行なう生徒が増えている。また、国立大学10%以上、私立大学30%以上を志望させる。就職率100%の進路実現を達成させる。	○昨年度の国公立大学現役合格者は3名で昨年度より1名減であった。 ○普通コースでは、進路面談等きめ細かい指導が行われている。入試制度の変更に対応しながらも、安易な進路決定をしない指導がなされている。	○特進クラスの充実に取り組み、国公立大を希望する生徒を増やし、意識付けと実力養成を図る。また、他のクラスでも私立大学の全体的な難化を考慮し、きめ細かい指導の充実を図り、高い意識を持たせ魅力あるクラスにする。 ○新教育課程実施に向け、充実した教育課程の実現を図る。	○特進クラス充実に向け、毎週特進クラス担当者会を開催し、3年間を見据えた指導の流れを検討している。 ○大学入試制度変更の動向をにらみながら、学校推薦型選抜入試受験者を中心に、指導担当者を付けてきめ細かい指導を行っている。 ○県総体代替大会での活躍や全国大会出場など部活動における中心を担っている。大運動会は体育コースを中心として運営し、成功した。体育コース集会を通して、日々の生活の振り返りや意識付けを行っている。今年度目標を「教室の整理整頓」「規範意識」「行儀」としている。終礼の実施で、教室の整理整頓は効果が上がっている。しかしながら、遅刻数や服装検査など、まだまだ学校生活において範となっている状態とは言えない。	B	○1、2年の11月模試については、模試の分析を各教科で実施、模試分析を利用して生徒の弱点や強みについて各教科で共有する。また、各教科で成績上位者をピックアップし、高い目標を持たせるように進路指導で働きかけていく。 ○引き続き、体育コース集会を定期的に開き、今年度目標「教室の整理整頓」「規範意識」「行儀」への反省と取組を指導する。 ○3年生の進路指導を通してより高い進路目標の設定と進路実現への意欲を高める。
	「地域探究の時間」の発展・充実	○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組む、地域に関する関心が高まっているとともに、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力を身につけている。 <指標> 事前事後のアンケート調査において、地域に関する関心が高まっており、またコミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力が向上している。	○「地域探究の時間」は6年目を迎え、新入生についても入学時にすでに学習に対する意識が高まっている。 ○1年生は「地域探究入門」、2年生は「地域探究の時間」、3年生は個別の自主活動にて地域についての知識関心を高める学習プランができており、特に2年生の活動についてはこれから始まる本格的な活動に対し意欲的な姿が見られる。	○1年生の入門活動では次年度の本格的な活動を意識させ、主体的に活動に関わる指導を行う。 ○2年生の活動では外部講師との連絡を密にとり、生徒の主体性を引き出せる活動を計画する。また、教員と講師とのそれぞれの役割を自覚し効果的な探究活動を展開する。 ○3年生の自主活動では、地域で行われるボランティア活動に積極的に参加できるように広報を充実させる。また、進路選択の場面でも地域貢献の視点を盛り込んだ指導を行う。	○1年生の入門活動が開始された。コロナ禍がフィールドワーク同行学習実施。北栄町副町長の講演会を通じて次年度の活動に向けての意識づけを行った。 ○コロナ禍の影響でフィールドワークを中心に活動が制限され探究の深まりが不十分になっている。しかしそのような中でも外部の講師の方々に協力いただき出来る範囲での探究の深まりを模索し実施した。 ○コロナ禍の影響で活動が中止、自粛され十分な活動を行えていない。できる範囲の活動で進路選択の一助となるよう活動に参加させた。	C	○今後は校内グループ学習となる。次年度の学びの土台となる協同して学ぶ力の育成に重きを置き探究入門を進めていく。 ○今後はまとめた学習に進んでいく。フィールドワークが不十分な次年度に引き継げるような課題発見、解決策提言に向け講師の方の協力を得ながら進めていき、学年発表、校内発表、サミットへとつなげていく。 ○コロナ禍でも可能な範囲で外部の活動に参加し進路実現の一助となる探究学習の場を提供する。
学校における安全確保	学校教育活動における安全確保の徹底	○生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。 <指標> いじめ防止対策計画に沿ったいじめ防止アンケートを年3回実施。学校における事故等の減少。	○体育の授業や部活動で、安全への意識の向上と安全対策の徹底に取り組んでいる。学校生活全般においても事故防止に努め、安全対策の徹底を継続的に図る必要がある。 ○様々な個性を持った生徒がおり、一人ひとりの個性に応じた「学び」が保障される必要がある。	○教職員及び生徒(部活動各役員)対象の救急救命講習を実施し、全員を受講させた。 ○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関する調査」を定期的に実施し、組織的な対応を図る。	○救急救命講習は、コロナ感染防止対策のため、例年の日程の夏季休業中には実施できなかった。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期は5月に実施し、環境保健部と各学年で情報を共有して、その後の面接指導等に活用した。	B	○今後は、避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。 ○「学校生活に関する調査」は、今後も各学期に1回を目処に実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、各学年との連携を密にし、日常的な保健・相談業務を継続していく。
業務改善の取組の推進	○各種委員会・分掌における業務内容の見直し ○時間外業務の縮減	○部活動の適切な休養日の設定や業務の洗い出しにより、時間外業務の縮減を図られている。 ○月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。 <指標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。月当たりの時間外業務が平成29年度比25%以上削減している(令和元年度達成)。	○各部活動の活動時間は減少したが、一部には大会前の遠征等により超過する部活動もあった。 ○時間外業務については、29年度比28%の削減となっている。 ○年間の時間外業務360時間を超えている教職員は3割程度。	○部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各々がを行い、活動の効率化を図る。 ○4から9月までの記録では、月45時間を超えた者は、3回1人、2回4人、1回6人、計11人(21%)で、年360時間以内の50%に当たる180時間を超えている者は12人(23%)であった。	B	○引き続き、教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間をシステムにより客観的に日々計測する	